

# 協育NEWS

「協育」という波紋を拡げます

会報誌第25号

2016年12月24日発行

発行：NPO法人 大分県「協育」アドバイザーネット

## 会員のみなさんへ

第10回 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会のご案内

理事長 中川 忠宣

2016年は素晴らしい初日を拝むことができました(別府湾から私が撮影)。新しい年も初日を拝んで飛躍の年になるようお願いしたいと思います。さて、2008年2月に、国東市安岐町の宿泊施設「梅園の里」を会場に、大分県教育委員会と国東地域デザイン会議の共催で、大分大学山崎清男教授を顧問、国東地域デザイン会議林 浩昭会長を実行委員長として開催してから10年を迎えることとなりました。NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット(以下「協育」ネット)は、本会が設立した年から共催として参画してきました。10回を迎えるに当たって、これまでの取組を見直す中で、私たちの「協育」ネットは、「国東地域デザイン会議」「大分大学高等教育開発センター」と共に3者の主催で継続開催することとし、「協育」ネットの会員にとっての中心となる研修機会にしていきたいと思っています。NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットは、大分大学高等教育開発センター主催の「協育」アドバイザー養成講座の受講者で、参加を希望する会員で構成しましたが、今後は、本「地域初」活力・発展・安心」デザイン実践交流会」を養成講座に位置づけて、その交流会の参加者から会員を募ることとしたいと思っています。皆様の身近な方を誘って参加していただきたいと思っています。また、大分県内の社会教育主事の資格を持っている仲間の「大分県社会教育主事有資格者の会(仮称)」(会長:岩切義和元県社教主事)を再結成して、本「地域初」活力・発展・安心」デザイン実践交流会」から合流する方向で検討しています。「協育」ネットとしては心強い仲間が出来ることを楽しみにしたいと思います。「梅園の里」でみなさんにお出会い出来ることを楽しみにしています。

日時：2017年2月25～26日

会場：国東市安岐町「梅園の里」

25日(土) 10:00～17:00 実践活動の報告と活動の仕組み作り演習

26日(日) 9:00～12:00 国東地域の産業と福祉活動視察

それでは、会員のみなさん  
良いお年をお迎え下さい。



## 大反響だった講演会！

子どもと本を結ぶ読書支援プロジェクト「ゆい(結い)」・・・講演会

### 私と読書

## 『誕生の瞬間を共にして』

日時 2016年11月(日)10:00～12:00

場所 大分大学医学部狭間キャンパス



堀永産婦人科医院  
師長 渡邊しおり氏



(主催者挨拶)



(講演の様子)



(会場からの質問)



(謝辞を述べる手山さん)

狭間キャンパスにて「堀永産婦人科医院 師長 渡邊しおり」氏に 私と読書『誕生の瞬間を共にして...』と題しまして、ご講演いただきました。「あまんきみこ」氏をご紹介いただいたことから始まった『子どもと本を結ぶあなたへ...』の講演会も4回目となり、多くの方々との出会いをいただきました。心より感謝申し上げます。さて、今回の講演会ですが、同医院と共催でおこなっている「赤ちゃん絵本の出会い～親の心我が子へ贈る小さな試み」からの企画でもあります。昨年の首藤氏の講演で多くの参加者が感銘を受けたという医療施設での読み聞かせのお話を受けて、医療に携わり、ご自身も大変な読書家である渡邊氏に講師をお願いいたしました。「読み聞かせ」といいますと母親が子どもに絵本を読んであげることがまず頭に浮かびますが、小児科の先生や看護師さん、施設の職員さん、また地域のボランティアさんたちによる子どもたち、最近では高齢の方々にも絵本の読み聞かせがおこなわれていて、幅広い年齢層の方々、絵本や本の楽しさを味わうことができます。そのような中、今回は、特に医療に関わる学生さんたちに、今後、医療機関で対応するであろう子どもたちや子育て中のお母さんたちとの関わりの中での「本の大切さ」に関する研修にさせていただけたらと思ひ、大分大学医学部をはじめとする医療専門学校の学生さんたちにも参加していただきました。まだアンケートの集約ができていませんが、「講師先生が、映像が浮かんでくるような話し方をされ、さらにその内容に感激して涙が出た」「講師の人生観、価値観には大いに共感した。これからも本との巡り合いを大切に楽しみたい」「講師の人間的な魅力と紡ぎ出される言葉に魅了された。これからの活動や暮らしに活かしていきたい」「暖かい気持ちになり、これからの活力となった」などなどメールや電話をいただいています。感激で多くの人が涙された講演会でした。裏面には参加した学生の感想も掲載しています。(佐藤真由美)

# 私と読書『誕生の瞬間を共にして・・・』 お話をお聞きして



私はどちらかといえば普段読書をする方ではありません。活字を読むことと言えばもっぱら大学で使用している教科書やたまたまスマートフォンでネットニュースなどを流し読みするといったところでした。今回お話を聞いてみようと思ったのは、渡邊しおり先生が現役の助産師として活動される中で読み聞かせを大切にいらっしゃる方だったからです。私は医師を志していますが、医学だけを学べばいいのかといえばそうではないことは十分わかっていたつもりでした。しかし実際なにかに取り組んでいるわけではなく、なにをすべきかという問いには答えられないままでした。そんなときにこの講演会のことを知り、なにかその問いの答えをみつけられそうだと漠然とした気持ちでお話を聞くことにしたのです。お話の中では、先生と本との出会いからさまざまな本にまつわるエピソードを笑いも交えながらお聞きすることができ、私のはじめに描いていた堅苦しい講演会のイメージとは全く異なっていました。私が印象に残ったことばは、「弱い人のことはちゃんとみてあげなければならない。ちゃんとみるためには知らなければならない。」というフレーズでした。医師となるときに患者さんは、必ずしも弱いという形容詞が当てはまるわけではないと思いますが、病気を抱えるとともに不安を抱えています。そんな患者さんのことを自分ではみなければならない、見通せるための広い世界を自分の中に持っておかなければならない……自分のやるべきことが1つ見つかりました。それはほかでもない、本を読むことです。本を読むことで想像力をはたらかせることが、すべてにおいて役立つのです。先生はお話の中で、スマートフォンやビデオ動画など、たくさんの機械にうもれることの怖さについても触れていました。これを機にそれらの時間を減らして本の時間をもっとつくりたいと思いました。お話を聞くことができ本当に良かったと思っています。(手山喜美子)



今回、私と読書『誕生の瞬間を共にして・・・』の講演を聞き改めて読書の大切さ、素晴らしさ、また読書が持つ様々な力を知ることが出来ました。私は幼少時代から今も読書が大好きで、学校などで忙しくても読書の時間を作るように心掛けています。今でも本屋さんや、図書館に行くとてもウキウキします。講演の中での言葉で印象に残ったことが、3つあります。1つ目は、本は転ぶ前に教えてくれるということです。この言葉を聞いた時に、なるほどなと思いました。なぜなら、本は自分が知らないことを教えてくれたりまだ経験したことのないことや経験できないことを疑似体験することができるからです。このことから、読書は自分の新たな知識となりこれからの人生の選択肢を増やすことができると思います。2つ目は、見えていることはほんの一部であり知らない人と人を傷つけてしまうということである。確かに、見えているものが全てではなく、ほんの一部です。そして、そのことを意識せずにいると知らない間に人を傷つけている可能性もあるということを知りました。なぜなら、見えないものを意識しないことから誤った認識をしてしまったり自分の想像で物事を見たり片付けたりしてしまうからです。3つ目は、本を読まないといまに流されてしまう可能性があるということです。なぜなら本から、様々な知識を得ることができるからです。テレビや、スマホでは得ることができないものを本から得ることができると思います。知識がないと、決断する際の情報が少なく選択肢が限られてきます。そのようなことから、周りの人と同じ決断をしたり意見に流される場合も考えられます。今回の講演で様々なことを考え感じました。それは、自分自身のこれからのことも大切なことでもありました。講演の中で生きることは、自分を表現することであり他人を通して自分を知ることであるという言葉がありました。私は他人だけでなく、本を通して自分を知ることでもできると考えているので、これからも読書の時間を大切にし教員になった際は、児童に読書の大切さや素晴らしさ、読書が持つ様々な力を伝えていきたいです。(上原嗟理)

## 事務局よりお知らせ

事務局安達宛に以下のようなメールが届きました。

「お世話になります。御無沙汰しています。食欲の秋ですねー^^  
11月19日・20日(土・日)と佐伯市で西日本B-1グランプリが開催されます。  
高速に乗ってピューといかがですか」

それは、佐伯市教育委員会 久々宮さんのお誘いメール。  
私は、グルメグランプリに心が揺らぎ、晴天の11月20日、別府から「ご当地、うまいもん」をたらふく食べるために高速をとばし出かけました。  
イベントのキャッチコピーは、《西日本B-1グランプリ:佐伯で開催!この秋にご当地グルメを引っさげたまちおこし団体が勢揃い。》

会場は、佐伯市役所駐車場・佐伯文化会館下お祭り広場の2会場で、その会場をつなぐのが中心市街地のアーケード。報道では、98,000人と..とにかすごい人・人・人でした。

佐伯の高速を降りると道路わきに「おもてなし」総合案内場が設置されており、ボランティアの学生さんたちが、プラカードを片手に笑顔で出迎え、大活躍している姿が目に入り、一瞬にして「来てよかった。」と、その「おもてなし」に感動的でした。

学生ボランティアさんは、中学生・高校生で、会場ではもちろん、中心市街地でも、ご案内に・ごみ収集に・ブースのPR等々、元気に活動している姿をたくさん見かけました。

その学生ボランティアさんを束ねていた方は、お誘いのメールを送ってくださった久々宮さんでした。

ちょっと大げさですが、町中の犬も猫もおとなも子どもみんな、佐伯を訪れたかたを歓迎しているかのようでした。

そんなイベントについて次回の会報誌に詳しいことを久々宮さんに原稿依頼しておりますので…。どうぞ、みなさまお楽しみに!



## ご案内

①「協育」見本市<2017年(H28年)>  
第9回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会の開催日程  
2017年2月25日(土)・26日(日)

## お願い

②会費納入のご協力程、よろしく願いいたします。

## 広報部よりお知らせ

2016年も残りわずかとなりました。今年も皆様のご協力と協育NEWSの紙面作成が出来ました。ありがとうございます。2017年も皆さんにいろいろな情報をお届け出来るように取材活動を続けてまいります。協育ネット会員の皆様良いお年をお迎えください。(上原)

